ボーリング柱状図

調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

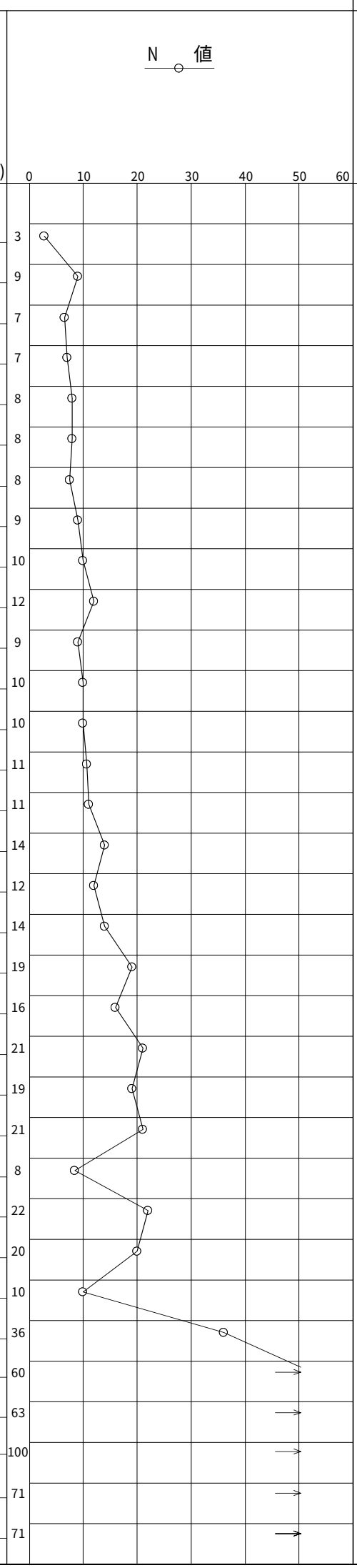
ボーリング名	No.1	調査位置	秋田市新屋比内町162番1他			北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課			調査期間	平成 18年 5月 30日 ～ 18年 6月 1日	東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者 門間整一	ボーリング責任者 佐々木健司
孔口標高	53.86m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°
総掘進長	33.36m	使用機種	試錐機 吉田式YBM-05D型	ハンマー落下用具	半自動落下	エンジン	クボタ式EA11-N型
ポンプ	カノ式V5-P型						

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	53.36	0.50	0.50		埋土	黄褐～灰			砂、下部はコンクリートが多く混じる
1～18	35.81	17.55	18.05		細砂	黄褐～灰褐			ほぼ均質な細砂を主体とし細粒分の混入は非常に少ない 砂の粒径はほぼ均一であるが、中砂も混じりややばらつくところも見られる ところどころ中砂がやや多く混じる 8m付近粗砂の混入見られる 最上部の1.50m付近までは非常に緩い 上部の9m付近まではやや緩い状態にある 1.40～1.45m間やや軟質な暗褐色の有機質土の薄層を挟む 上部は乾燥しているが14m付近から含水が高くなる
19～23	30.16	5.65	23.70		細砂	暗灰～暗青灰			上部の細砂より粒径が若干粗くなる 砂の粒径はほぼ均一なところが多い 19m付近少量のシルト混じる 23m付近数cm程度のシルトの薄層を挟む
24～27	26.06	4.10	27.80		粘土質砂礫	暗青灰			全般に粘土が多く混じり礫の含有量はばらつく 上部と下部で礫混じり粘土の薄層を挟む 礫は亜円礫～亜角礫が多く、礫径はφ5～30mm程度のものが多い 礫径は最大でφ40mm程度である 炭化した有機物が混じり、上部では有機質土の薄層を挟む
28	25.26	0.80	28.60		風化シルト岩	暗灰			やや風化が見られる
29～33	20.50	4.76	33.36		シルト岩	暗灰			ところどころやや砂質となる 細粒砂岩の薄層を挟む 上部で若干風化が見られるが他は硬質となる 一部に少量の亀裂が見られる 掘進中に逸水あり 新第三紀層のシルト岩で軟岩に相当する

孔内水位(m)／測定月日：14.00

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	1/12	3/32	3
1.47 2.15	3	3	3	9/30	9
2.45 3.15	2	3/12	2	7/32	7
3.47 4.15	2	2	3	7/30	7
4.45 5.15	2	3	3	8/30	8
5.45 6.15	2	3	3	8/30	8
6.45 7.15	2	3	3/12	8/32	8
7.47 8.15	3	3	3	9/30	9
8.45 9.15	3	3	4	10/30	10
9.45 10.15	4	4	4	12/30	12
10.45 11.15	3	3	3	9/30	9
11.45 12.15	3	4	3	10/30	10
12.45 13.15	3	3	4	10/30	10
13.45 14.15	3	4	4/11	11/31	11
14.46 15.15	3	4	4	11/30	11
15.45 16.15	4	5	5	14/30	14
16.45 17.15	4	4	4	12/30	12
17.45 18.15	4	5	5	14/30	14
18.45 19.15	5	7	7	19/30	19
19.45 20.15	5	5	6	16/30	16
20.45 21.15	6	7	8	21/30	21
21.45 22.15	6	6	7	19/30	19
22.45 23.15	6	7	8	21/30	21
23.45 24.15	2	3	4/12	9/32	8
24.47 25.15	4	6	12	22/30	22
25.45 26.15	6	6	8	20/30	20
26.45 27.15	2	5	3	10/30	10
27.45 28.15	9	13	14	36/30	36
28.45 29.15	14	22	14/5	50/25	60
29.40 30.15	17	21	12/4	50/24	63
30.39 31.15	25	25/5		50/15	100
31.30 32.15	19	27	4/1	50/21	71
32.36 33.15	20	27	3/1	50/21	71
33.36					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

事業・工事名

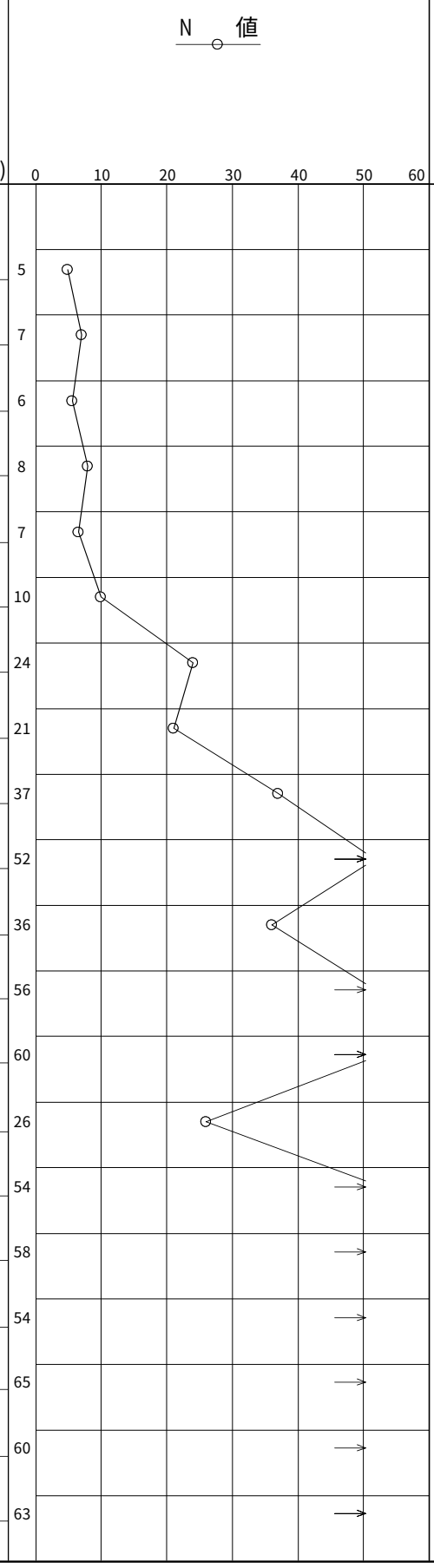
ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	No.2	調査位置	秋田市新屋比内町162番1他			北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課			調査期間	平成 18年 6月 8日 ～ 18年 6月 9日	東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	門間整一	ボーリング責任者	菅原清光
孔口標高	54.07m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	吉田式YBM-05D型	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	20.39m								エンジン	クボタ式EA11-N型	ポンプ	カノ式V5-P型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
			4.80		細砂	黄褐～灰褐			ほぼ均質な細砂を主体とし細粒分の混入は非常に少ない 砂の粒径はほぼ均一であるが、一部に少量の中砂が混じる 全般にやや緩い状態にある 上部にφ5～20mm程度の礫混じる	
	49.27	4.80	6.40		粘土	黄褐			ほぼ均質な粘土で粘性がやや強い 硬さは中程度 少量の細砂や細礫が混じる 5.20mから全量逸水あり	
	47.67	1.60	16.60		粘土混じり砂礫	褐～茶褐			礫は亜円礫主体で亜角礫も混じる 礫径はφ2～30mm程度のものが多い 礫径は最大でφ40mm程度 礫の含有量はばらつき砂の多いところも見られる 10m以深は礫の多く混じるところが多くなる 硬質泥岩の岩片礫が混じる 14m付近細砂の薄層を挟む 砂は細砂を主体とするが、中～粗砂も混じりばらつくところも見られる 部分的に少量の粘土が混じる	13.40
	37.47	10.20	20.39		シルト岩	暗灰			全般に硬質となる ところどころやや砂質となる 一部に少量の亀裂が見られる 新第三紀のシルト岩で軟岩に相当する	
	33.68	3.79								

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2／15	1／5	2／11	5／31	5
1.46 2.15	2	3／13	2／7	7／30	7
2.45 3.15	2／12	2／8	2／12	6／32	6
3.47 4.15	2	3	3	8／30	8
4.45 5.15	2／12	2／8	3／12	7／32	7
5.47 6.15	2	3／12	5／8	10／30	10
6.45 7.15	6	8	10	24／30	24
7.45 8.15	5	6	10	21／30	21
8.45 9.15	9	13	15	37／30	37
9.45 10.15	16	15	19／9	50／29	52
10.44 11.15	10	12	14	36／30	36
11.45 12.15	15	21	14／7	50／27	56
12.42 13.15	16	24	10／5	50／25	60
13.40 14.15	11	7	8	26／30	26
14.45 15.15	11	20	19／8	50／28	54
15.43 16.15	14	18	18／6	50／26	58
16.41 17.15	12	17	21／8	50／28	54
17.43 18.15	11	29	10／3	50／23	65
18.38 19.15	13	27	10／5	50／25	60
19.40 20.15	15	25	10／4	50／24	63
20.39					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリング№

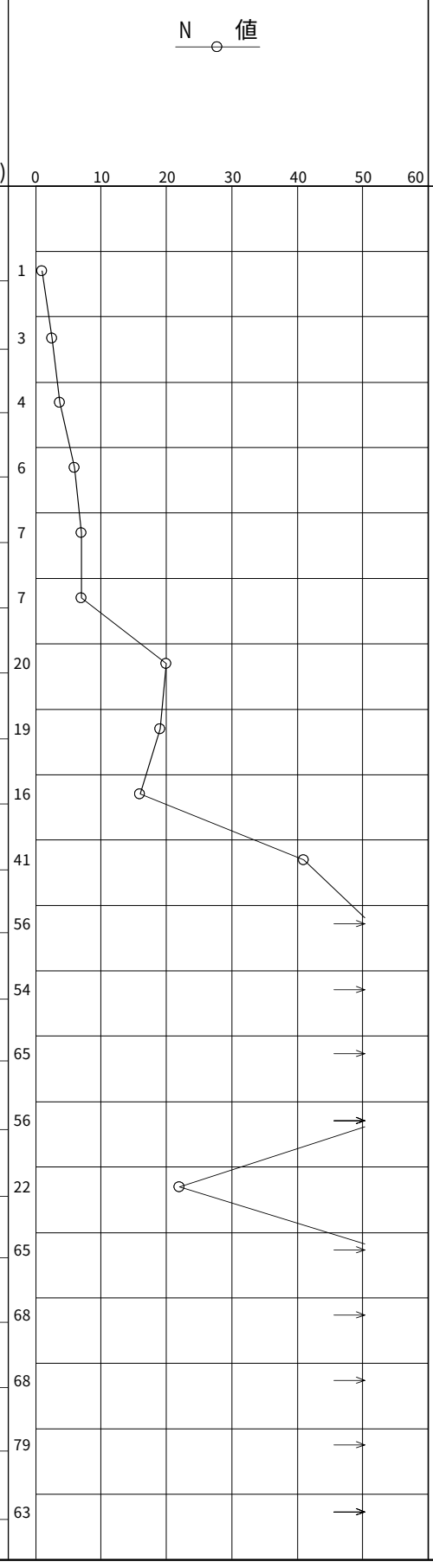
シート№

ボーリング名	No.3	調査位置	秋田市新屋比内町162番1他						北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課			調査期間	平成 18年 6月 12日 ～ 18年 6月 14日				東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	門間整一		ボーリング責任者	宇佐美勇
孔口標高	53.41m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	吉田式YBM01-WA型	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	20.39m								エンジン	ヤンマー式NFD10型	ポンプ	吉田式GP-5型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1 2 3 4 5	47.61	5.80	5.80		細砂	黄褐～灰褐			ほぼ均質な細砂を主体とし細粒分の混入は非常に少ない 砂の粒径はほぼ均一であるが、一部に少量の中砂が混じる 上部の1.50m付近までは非常に緩い 1.50m以深も全般にやや緩い状態にある	
6	46.51	1.10	6.90		粘土	黄褐			含水は中程度 若干砂質で微量の細礫やφ15mmの円礫1個含む	
7 8 9 10 11 12 13 14 15	38.31	8.20	15.10		粘土混じり砂礫	黄褐～灰褐			礫は亜円礫が多い 礫径はφ5～30mm程度のものが多い 礫の含有量は10m以深でやや多くなる 11m以深ところどころにφ40～50mm程度の礫が混じる 礫質は安山岩質のものが多い 14m付近に花崗岩のくさり礫混じる 砂は細～粗砂で粒径はややばらつく	12.80
	37.61	0.70	15.80		風化シルト岩	黄褐			風化が進み変色している	
16 17 18 19 20	33.02	4.59	20.39		シルト岩	暗灰			全般に硬質となる 全般にやや砂質である 一部に少量の亀裂が見られ、掘進中に逸水が確認された 新第三紀のシルト岩で軟岩に相当する	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1/30			1/30	1
1.45 2.15	1/15	1/11	1/9	3/35	3
2.50 3.15	1	1/8	2/14	4/32	4
3.47 4.15	2	2	2	6/30	6
4.45 5.15	2	2	3	7/30	7
5.45 6.15	2	2	3	7/30	7
6.45 7.15	6	7	7	20/30	20
7.45 8.15	6	6	7	19/30	19
8.45 9.15	5	5	6	16/30	16
9.45 10.15	7	14	20	41/30	41
10.45 11.15	15	19	16/7	50/27	56
11.42 12.15	15	18	17/8	50/28	54
12.43 13.15	18	22	10/3	50/23	65
13.38 14.15	16	18	16/7	50/27	56
14.42 15.15	6	7	9	22/30	22
15.45 16.15	17	24	9/3	50/23	65
16.38 17.15	18	25	7/2	50/22	68
17.37 18.15	20	24	6/2	50/22	68
18.37 19.15	22	28/9		50/19	79
19.34 20.15	17	20	13/4	50/24	63
20.39					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

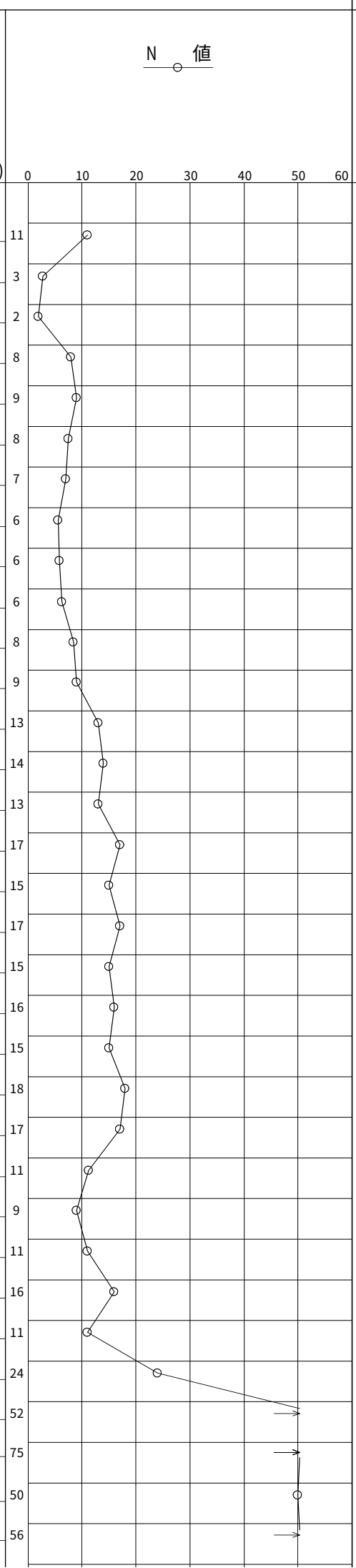
ボーリング名	No.4	調査位置	秋田市新屋比内町162番1他					北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課			調査期間	平成 18年 6月 1日 ～ 18年 6月 2日			東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	門間整一	ボーリング責任者	佐々木健司
孔口標高	51.21m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
総掘進長	34.38m								

試錐機	吉田式YBM-05D型	ハンマー落下用具	半自動落下
エンジン	クボタ式EA11-N型	ポンプ	カノ式V5-P型

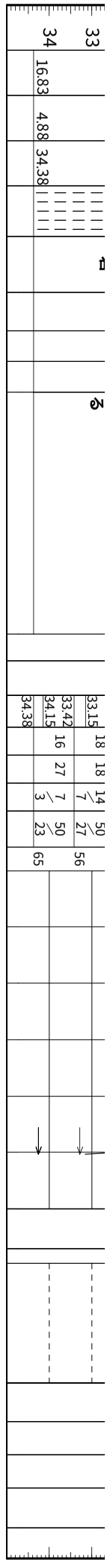
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1～24	26.81	24.40	24.40		細砂	黄褐～灰褐			地表から0.30m付近まで有機物混じる ほぼ均質な細砂を主体とし細粒分の混入は非常に少ない 砂の粒径はほぼ均一であるが、6m以深若干中砂が混じるようになる 17m及び21m付近に中～粗砂の薄層を挟む 1.50～3.50m間は非常に緩い状態にある 3.50～12.50m間はやや緩い状態にある 15m付近含水あり	14.50
25	26.01	0.80	25.20		礫混じりシルト	褐			礫はシルト岩の岩片等で細礫が多い	
26～28	22.46	3.55	28.75		砂質シルト	褐～暗灰			シルト岩の強風化したものと思われる ところどころやや砂質となる 硬軟にややばらつきが見られる	
29	21.71	0.75	29.50		風化シルト岩	暗緑灰			やや砂質で風化が進んでいる	
30～34					シルト岩	暗灰			全般に硬質となる ところどころやや砂質となる 一部に少量の亀裂が見られる 掘進中に逸水あり 新第三紀のシルト岩で軟岩に相当する	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	3	4	4	11／30	11
1.45 2.15	1／12	1	1	3／32	3
2.47 3.15	1／18	1／12		2／30	2
3.45 4.15	2	3	3	8／30	8
4.45 5.15	3	3	3	9／30	9
5.45 6.15	2	3	3／12	8／32	8
6.47 7.15	2／13	2／9	3／8	7／30	7
7.45 8.15	2／12	2	2	6／32	6
8.47 9.15	2／13	2／8	2	6／31	6
9.46 10.15	2	2	3／13	7／33	6
10.48 11.15	3／12	3	3	9／32	8
11.47 12.15	2	3	4	9／30	9
12.45 13.15	4	4	5	13／30	13
13.45 14.15	4	5	5	14／30	14
14.45 15.15	4	4	5	13／30	13
15.45 16.15	5	6	6	17／30	17
16.45 17.15	4	6	5	15／30	15
17.45 18.15	5	5	7	17／30	17
18.45 19.15	4	5	6	15／30	15
19.45 20.15	5	5	6	16／30	16
20.45 21.15	4	6	5	15／30	15
21.45 22.15	5	6	7	18／30	18
22.45 23.15	6	5	6	17／30	17
23.45 24.15	4	5	3／12	12／32	11
24.47 25.15	5	2	2	9／30	9
25.45 26.15	4	3	4	11／30	11
26.45 27.15	7	5	4	16／30	16
27.45 28.15	4	3	4	11／30	11
28.45 29.15	8	8	8	24／30	24
29.45 30.15	12／9	17	21	50／29	52
30.44 31.15	23	27		50／20	75
31.35 32.15	13	17	20	50／30	50
32.45 33.15	18	18	14／7	50／27	56
33.42	16	27	7／	50／	



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日


33
34
16.83
4.88
34.38
33.15
33.42
34.15
34.38
18
18
16
27
14
7
7
3
50
27
50
23
56
65
56
65

ボーリング柱状図

調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

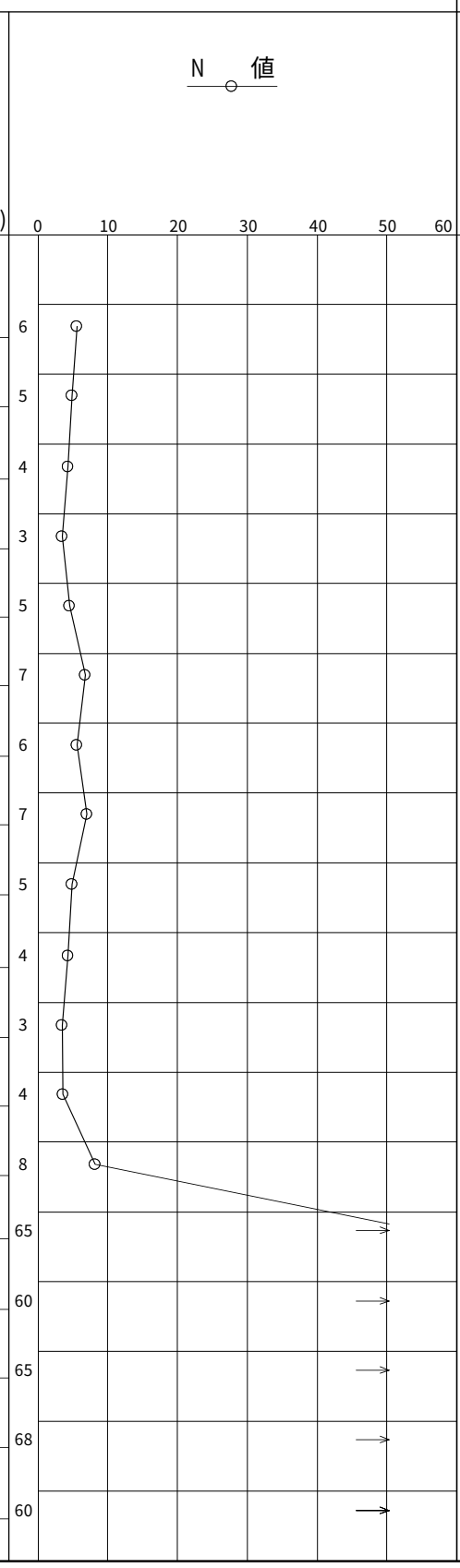
ボーリング名	No.5		調査位置	秋田市新屋比内町162番1他					北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課				調査期間	平成 18年 6月 9日 ～ 18年 6月 12日			東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	門間整一	ボーリング責任者	菅原清光
孔口標高	51.93m	角度	方向	地盤勾配	使用機種	試錐機	吉田式YBM-05D型		ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	18.40m					エンジン	クボタ式EA11-N型		ポンプ	カノ式V5-P型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	51.68	0.25	0.25		礫混じり細砂	暗褐			礫径はφ10～40mm程度
1 2 3 4 5 6 7 8 9	42.63	9.05	9.30		細砂	黄褐～灰褐			ほぼ均質な細砂を主体とし細粒分の混入は非常に少ない 砂の粒径はほぼ均一であるが、ところどころ少量の中砂が混じる 下部では中砂が若干多く混じるようになる 全般に緩い状態にある 全般にやや乾燥している
	42.13	0.50	9.80		礫混じり粘土	茶褐			礫径はφ2～15mm程度である
10 11 12	38.93	3.20	13.00		粘土	茶褐～黄灰			少量の礫や有機物が混じる 礫は亜角礫が多く礫径はφ2～10mm程度 12m付近にφ40mmの円礫混じる 粘土はほぼ均質で粘性がやや強い 一部に砂質土の薄層を挟む
13	38.63	0.30	13.30		礫混じり粘土	褐			礫径φ2～20mm程度の亜円礫や砂が混じる
	38.23	0.40	13.70		砂質粘土	暗灰			シルト岩の強風化したものと思われる
14 15 16 17 18	33.53	4.70	18.40		シルト岩	暗灰			全般に硬質である ところどころやや砂質となる 一部に少量の亀裂が見られる 18m付近から全量逸水あり 新第三紀層のシルト岩で軟岩に相当する

孔内水位(m)／測定月日：8.70

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2/11	2	2/11	6/32	6
1.47 2.15	2	2/15	1/6	5/31	5
2.46 3.15	2/14	2/11	1	5/35	4
3.50 4.15	1	1/11	2/14	4/35	3
4.50 5.15	2/18	1/5	2	5/33	5
5.48 6.15	2/13	2	3/8	7/31	7
6.46 7.15	2/14	2	2/8	6/32	6
7.47 8.15	3/12	2	2/8	7/30	7
8.45 9.15	2/13	2/9	1/9	5/31	5
9.46 10.15	2/14	1/8	2/13	5/35	4
10.50 11.15	1	1	2/15	4/35	3
11.50 12.15	1	2/16	1/7	4/33	4
12.48 13.15	4	3/11	2/12	9/33	8
13.48 14.15	20	22	8/3	50/23	65
14.38 15.15	19	21	10/5	50/25	60
15.40 16.15	21	22	7/3	50/23	65
16.38 17.15	19	26	5/2	50/22	68
17.37 18.15	15	21	14/5	50/25	60
18.40					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo	

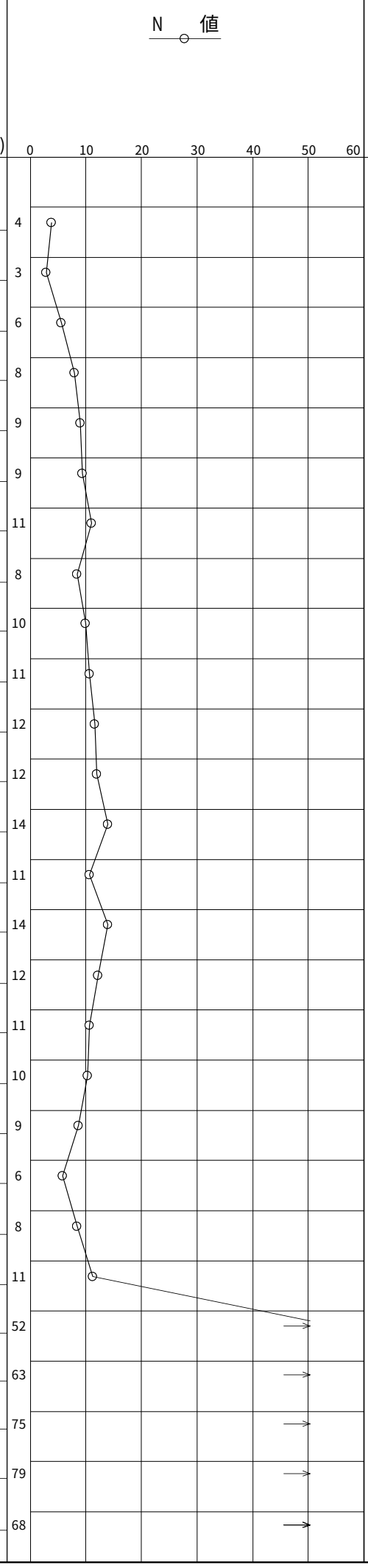
シートNo

ボーリング名	No.6	調査位置	秋田市新屋比内町162番1他			北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課			調査期間	平成 18年 6月 13日 ～ 18年 6月 14日	東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	門間整一	ボーリング責任者	菅原清光
孔口標高	50.49m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	吉田式YBM-05D型	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	27.37m								エンジン	クボタ式EA11-N型	ポンプ	カノ式V5-P型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1～19	31.19	19.30	19.30		細砂	黄褐～灰褐			地表付近に礫混じる　礫径はφ10～30mm程度 ほぼ均質な細砂を主体とし細粒分の混入は少ない 砂の粒径はほぼ均一であるが、中砂や粗砂の混入も見られる 下部の14m以深で中砂や粗砂がやや多く混じるようになり粒径がややばらつくところも見られる 2m付近にシルトの薄層を挟む 10m付近に細礫含む 上部の7m付近まではやや緩い状態にある 上部は乾燥している	14.50
20～22	28.09	3.10	22.40		粘土	暗灰～青灰～黄灰			含水は中程度である 上部はやや有機質で繊維質の有機物や炭化した木片が混じる 中間は青灰色のほぼ均質な粘土 下部は黄灰色で微量の有機物が混じる	
	27.69	0.40	22.80		風化シルト岩	暗灰			風化が進みやや軟質	
23～27	23.12	4.57	27.37		シルト岩	暗灰			全般に硬質となる 部分的にやや砂質となる 25m付近に凝灰岩の薄層を挟む 一部に少量の亀裂が見られ、掘進中に逸水が確認された 新第三紀のシルト岩で軟岩に相当する	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2/17	1/8	1/6	4/31	4
1.46 2.15	1/12	1	1/9	3/31	3
2.46 3.15	2	2/12	2	6/32	6
3.47 4.15	2	3	3	8/30	8
4.45 5.15	3	3	3	9/30	9
5.45 6.15	3	3	4/12	10/32	9
6.47 7.15	3	4	4	11/30	11
7.45 8.15	3/11	3	3/11	9/32	8
8.47 9.15	3	4/12	3/8	10/30	10
9.45 10.15	3	4/11	4	11/31	11
10.46 11.15	3	4	5/11	12/31	12
11.46 12.15	3	4	5	12/30	12
12.45 13.15	4	5	5	14/30	14
13.45 14.15	4/12	3/8	4/11	11/31	11
14.46 15.15	4	5	5	14/30	14
15.45 16.15	4/11	4	5/11	13/32	12
16.47 17.15	4/12	3/8	4/11	11/31	11
17.46 18.15	3/11	4	4/11	11/32	10
18.47 19.15	4/12	3/8	2/11	9/31	9
19.46 20.15	2/12	2	2/9	6/31	6
20.46 21.15	2/11	3/9	4/12	9/32	8
21.47 22.15	3	4	5/12	12/32	11
22.47 23.15	15	14	21/9	50/29	52
23.44 24.15	16	24	10/4	50/24	63
24.39 25.15	20	30		50/20	75
25.35 26.15	23	27/9		50/19	79
26.34 27.15	19	26	5/2	50/22	68
27.37					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	No.7	調査位置	秋田市新屋比内町162番1他					北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課			調査期間	平成 18年 6月 7日 ～ 18年 6月 9日			東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)	主任技師		現場代理人		コア鑑定者	門間整一	ボーリング責任者	宇佐美勇
孔口標高	52.38m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
総掘進長	25.32m								

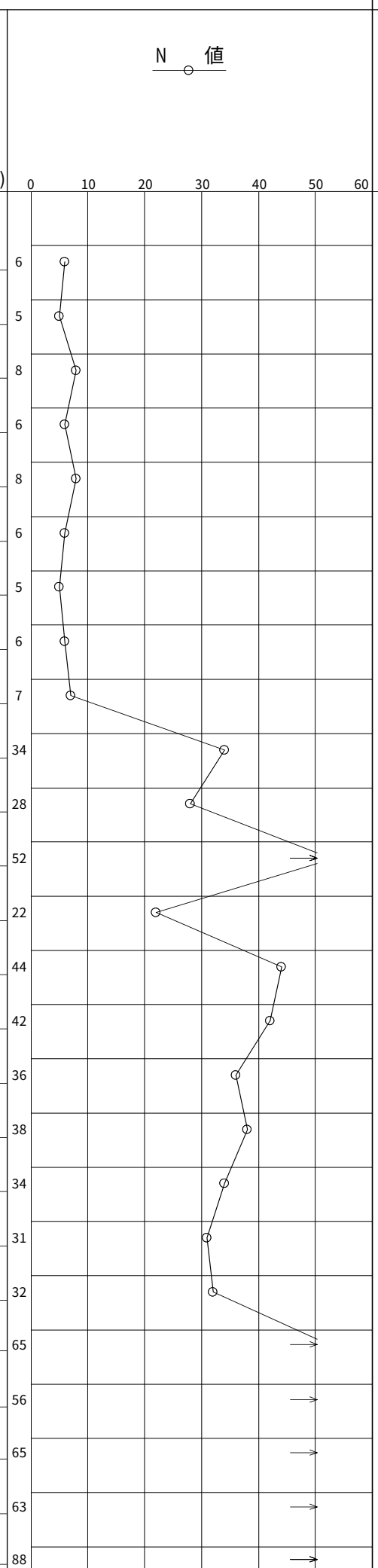
試錐機	吉田式YBM01-WA型	ハンマー落下用具	半自動落下
エンジン	ヤンマー式NFD10型	ポンプ	吉田式GP-5型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	52.13	0.25	0.25		盛土	暗褐			玉石混じり砂礫
1～8	43.58	8.55	8.80		細砂	灰褐			ほぼ均質な細砂で細粒分の混入は非常に少ない 砂の粒径はほぼ均一であるが、下部で若干中砂の混入も見られる 全体にやや緩い状態にある 乾燥状態にあり含水は見られない
9～13	39.38	4.20	13.00		粘土質砂礫	黄褐～灰褐			粘土が混じり上部ではやや多く混じる 礫は亜円礫が多い 礫径はφ5～40mm程度のものが多い 9.70m付近から一部にφ50～80mm程度の礫が混じる 全体に礫の含有量がやや多い 砂は細～粗砂で砂の粒径はばらつく 9.50m付近から全量逸水あり
14～21	31.38	8.00	21.00		風化シルト岩	暗灰			やや風化が進んでいる やや軟質なところが多いが、部分的に硬質な箇所も見られる 色は暗灰色がほとんどであるが、部分的に褐色に変色しているところも見られる 亀裂が多く、亀裂面が褐色に変色しているところが多く見られる 若干砂質となる箇所も見られる 掘進中に全量逸水あり
22～25	27.06	4.32	25.32		シルト岩	暗灰			全般に硬質となる ところどころやや砂質となる 亀裂は少なくなる 新第三紀のシルト岩で軟岩に相当する

孔内水位(m)／測定月日：8.90

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	2	6／30	6
1.45～2.15	1	2	2	5／30	5
2.45～3.15	2	3	3	8／30	8
3.45～4.15	2	2	2	6／30	6
4.45～5.15	2	3	3	8／30	8
5.45～6.15	2	2	2	6／30	6
6.45～7.15	1	2	2	5／30	5
7.45～8.15	2	2	2	6／30	6
8.45～9.15	2	2	3	7／30	7
9.45～10.15	12	11	11	34／30	34
10.45～11.15	9	9	10	28／30	28
11.45～12.15	18	16	16／9	50／29	52
12.44～13.15	4	6	12	22／30	22
13.45～14.15	13	14	17	44／30	44
14.45～15.15	10	13	19	42／30	42
15.45～16.15	10	12	14	36／30	36
16.45～17.15	11	13	14	38／30	38
17.45～18.15	10	11	13	34／30	34
18.45～19.15	9	10	12	31／30	31
19.45～20.15	10	10	12	32／30	32
20.45～21.15	17	21	12／3	50／23	65
21.38～22.15	15	18	17／7	50／27	56
22.42～23.15	18	21	11／3	50／23	65
23.38～24.15	17	21	12／4	50／24	63
24.39～25.15	23	27／7		50／17	88
25.32					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

ボーリング柱状図

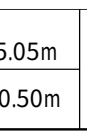
調　査　名　他委託第8号 新屋比内町市営住宅地質調査業務委託

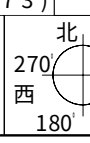
事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	No.8		調査位置	秋田市新屋比内町162番1他					北緯	
発注機関	秋田市役所建設部建築課				調査期間	平成 18年 6月 5日 ～ 18年 6月 7日			東経	
調査業者名	株式会社 伊藤ボーリング 電話(018-845-0573)		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	門間整一	ボーリング責任者	菅原清光
孔口標高	45.05m	角度	方向	地盤勾配	使用機種	試錐機	吉田式YBM-05D型		ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	40.50m					エンジン	クボタ式EA11-N型		ポンプ	カノ式V5-P型

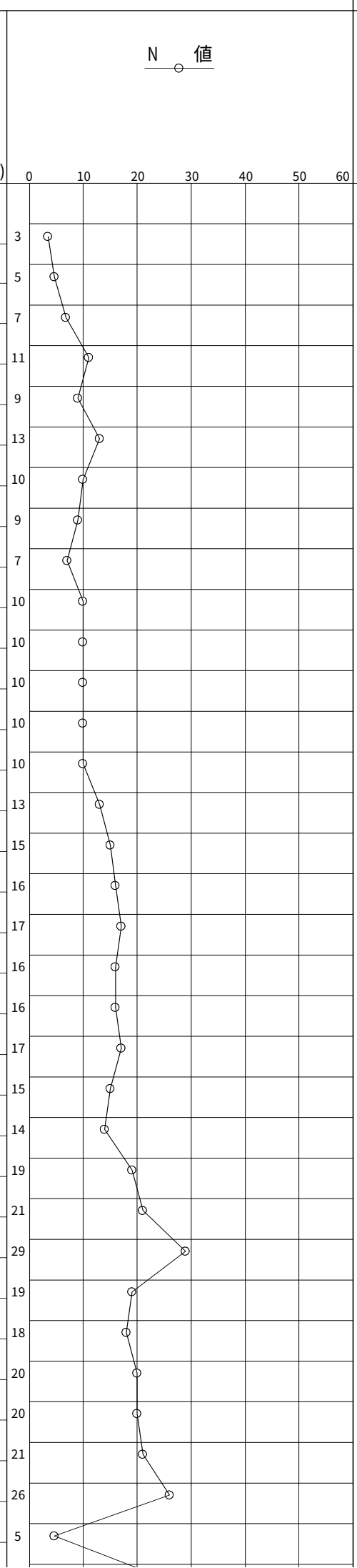




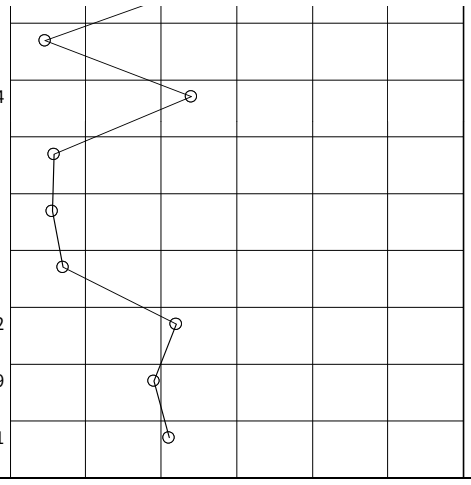
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
			19.05		細砂	灰褐～黄褐			砂の粒径はほぼ均一であるが、ところどころ中砂が混じる ほぼ均質な細砂を主体とし、細粒分の混入はほとんどない 上部の9m付近まではやや緩いところが多い 15m付近中砂がやや多く混じる 15m付近中～粗砂の薄層をやや多く挟む 18m付近粗砂の薄層を挟む 19.40m付近粗砂の薄層を挟む 15m付近から含水あり	15.00
		19.05	26.00		粘土混じり砂礫	黄褐～青灰			礫は亜円礫が多い 礫径はφ5～25mm程度のものが多い 砂は細砂～粗砂で粒径はばらつく	
		26.00	27.80		細砂	暗灰～青灰			砂の粒径は均一なところが多いが、中砂が混じりばらつくところも見られる 有機物や埋木が混じる 29m付近有機質土の薄層を挟む 粘土の薄層を挟み、31m付近では5cm程度のやや硬い層が見られる	
		27.80	31.60		粘土質砂礫	青灰			礫は亜円礫～亜角礫が多い 礫径はφ5～20mm程度ものが多く、最大でφ30mm程度 粘土が多く混じる	
		31.60	32.80		粘土	青灰			少量の有機物や砂が混じる	
		32.80	33.90							

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	2/15	4/35	3
1.50 2.15	2/15	1/5	2/12	5/32	5
2.47 3.15	2/12	2/8	3/11	7/31	7
3.46 4.15	3	4	4	11/30	11
4.45 5.15	2	3	4	9/30	9
5.45 6.15	4	4	5	13/30	13
6.45 7.15	2	4	4	10/30	10
7.45 8.15	2	3	4	9/30	9
8.45 9.15	2	2	3	7/30	7
9.45 10.15	2	3	5	10/30	10
10.45 11.15	3	3	4	10/30	10
11.45 12.15	3	3	4	10/30	10
12.45 13.15	3	3	4	10/30	10
13.45 14.15	3	3	4	10/30	10
14.45 15.15	4	4	5	13/30	13
15.45 16.15	4	5	6	15/30	15
16.45 17.15	4	6	6	16/30	16
17.45 18.15	4	6	7	17/30	17
18.45 19.15	5	5	6	16/30	16
19.45 20.15	4	6	6	16/30	16
20.45 21.15	4	6	7	17/30	17
21.45 22.15	4	5	6	15/30	15
22.45 23.15	4	5	5	14/30	14
23.45 24.15	4	7	8	19/30	19
24.45 25.15	7	7	7	21/30	21
25.45 26.15	7	10	12	29/30	29
26.45 27.15	5	7	7	19/30	19
27.45 28.15	5	7	6	18/30	18
28.45 29.15	4	6	10	20/30	20
29.45 30.15	7	7	6	20/30	20
30.45 31.15	6	7	8	21/30	21
31.45 32.15	3	10	13	26/30	26
32.45 33.15	2/15	1/6	2/11	5/32	5
33.47	8	10	6	24	



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日

33								粘土が多く混じる
	11.15	1.10	33.90		粘土	青灰		少量の有機物や砂が混じる
34	10.55	0.60	34.50		粘土質礫	青灰		礫は亜角礫が多い 礫径はφ5～30mm程度のものが多い
35					粘土	青灰		ほぼ均質な粘土で含水比は中程度 有機物が混じり37.40m付近ではやや炭化した腐植土の薄層を挟む 37m付近からやや砂質となる
36								
37	7.15	3.40	37.90					
38	6.65	0.50	38.40		粘土混じり砂礫	青灰		粘土多く混じる 礫は亜円礫が多く、礫径はφ10～30mm程度のものが多い 礫径は最大でφ40mm程度
39								
40	4.55	2.10	40.50		風化シルト岩	暗灰		風化が進んでいるが部分的にやや硬質なところも見られる 一部やや砂質となる

33.15	2/15	1/6	2/11	5/32	5
33.47 34.15	8	10	6	24/30	24
34.45 35.15	2/12	2/11	2/8	6/31	6
35.46 36.15	2/11	2/11	2	6/32	6
36.47 37.15	2/13	3/9	2/8	7/30	7
37.45 38.15	8	6	8	22/30	22
38.45 39.15	5	6	8	19/30	19
39.45 40.15	5	8	8	21/30	21
40.45